



糖尿病通信

— 40 —

糖尿病と上手にお付き合いするために

インスリン注射のいろいろ

糖尿病の強い味方インスリン注射。インスリンはもともと人の体で(膵臓のベータ細胞から)分泌されるホルモンですから、上手に使いさえすれば、もっとも安全な治療薬と言えます。このインスリンはどんな時に使うのでしょうか。

1. どうしてもインスリンが必要な場合

1型糖尿病、糖尿病性昏睡 重症感染症、大きな手術、大けが など。このような場合は、生命を守るためにどうしてもインスリンが必要です。

2. できればインスリンを使いたいとき

内服薬をしっかり使用しても、血糖のコントロールがうまく行かない場合。(特に体重減少傾向がある場合) 膵ベータ細胞を守り、機能低下を食い止めたい時。高血糖の悪影響(糖毒性)を早く断ち切って、コントロールを改善したいとき。肝臓病や膵臓病、腎機能障害があるとき。このような時には、経口剤を使い苦勞するより、インスリンに切り替えたほうがずっとうまく行きます。内科 柳澤



糖尿病のケア



自己注射用のインスリンには様々な種類があります。インスリンには追加分泌補充に使われる速効型・超速効型と、基礎分泌補充に使われる中間型・持効型、これらの混合剤があります。インスリンの種類によって効果発現までの時間や効果の持続時間が違い、種類を間違えるとなかなか血糖が下がらなかったり、思わぬ時間に低血糖を起こすことがあります。

今回は主な当院採用薬を中心に、インスリン製剤の作用の仕方を表にまとめました。

このように、インスリン製剤には様々な種類があり、患者さんそれぞれの症状に併せた製剤が処方されています。皆さんがお使いのインスリンはどれでしょうか？

インスリンは糖尿病の強い味方です。正しく使って、健康な生活を送りましょう。

薬剤科 小林

分類名	商品名	効果の現れ方	発現時間	持続時間
超速効型	ノボラピッド注フレックスペン	24時間	10~20分	3~5時間
速効型	ノボリンRフレックスペン イノレットR注	24時間	約30分	約8時間
混合型	ノボラピッド30ミックスフレックスペン ノボリン30Rフレックスペン イノレット30R注 ヒューマログミックス50注キット	24時間	10~20分 約30分	約24時間 約24時間
中間型	ノボリンN注フレックスペン イノレットN注	24時間	約1.5時間	約24時間
持効型	レベミル注300フレックスペン ランタス注ソロスター	24時間	約1時間 1~2時間	約24時間 24~28時間

(注) 混合型製剤のいろいろ
すぐに効く成分と中間型が混ざっています。
ノボラピッド 30 ミックスフレックスペン
超速効型：中間型=3：7

ノボリン 30R フレックスペン、イノレット 30R 注
速効型：中間型=3：7
ヒューマログミックス 50 注キット
超速効型：中間型=1：1